

カンキツの高接更新技術の改善に関する研究

第6報 中間台木の種類と品質

吉田 守・栗山隆明・下大迫三徳(福岡県農業総合試験場)

YOSHIDA, M., T. KURIYAMA and M. SHIMOOSAKO : Studies on Improvement of Top-Warking on Citrus Tree as a Method of Variety Renovation. 6. Effects of Varieties of Interstock on the Fruit Quality

高接更新樹の果実は中間台木により品質の差異が認められるので、中間台木の種類と高接果実の品質について検討を行なった。

1. 試験方法

中間台木の種類は早生温州、普通温州、ナツダイダイを使用し、穂木品種はワシントンネーブル、吉田ネーブル、福原オレンジ、ヒュウガナツ、宮内イヨカン、ミネオラ、セミノールであった。なお、対照として、ワシントンネーブル、吉田ネーブル、福原オレンジ、宮内イヨカンのカラチ台の果実を使用した。調査は1978年から1981年までの4年間行なった。

2. 結果及び考察

1) 吉田ネーブルの可溶性固形物は年次、場所により中間台の影響が少ない場合もあるが、全般にナツダイダイ中間台において普通温州中間台よりも低くなる傾向が認められた。また、早生温州と普通温州中間台とでは、ほとんど差は認められなかった。クエン酸については一定の傾向が認められなかった。

2) ワシントンネーブルの可溶性固形物は温州中間台、ナツダイダイ中間台ともに一定の傾向は認められなかった。しかし、カラチ台のものよりわずかに高い傾向にあった。クエン酸については一定の傾向が認められなかった。

3) 福原オレンジの可溶性固形物は普通温州、ナツダイダイ中間台、カラチ台とも年次によりふれがあり、一定の傾向は認められなかった。クエン酸は中間台の間に差は認められなかったが、カラチ台よりやや低い傾向にあった。

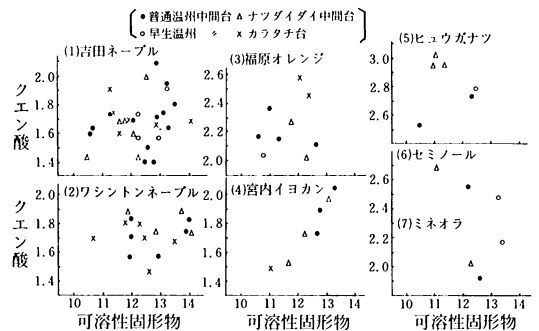
4) 宮内イヨカンは、1978年にナツダイダイ中間台の可

溶性固形物がわずかに高かったが、全般に普通温州中間台の可溶性固形物が高い傾向にあった。また、カラチ台より普通温州、ナツダイダイ中間台が高い傾向にあった。クエン酸も同様の傾向であった。

5) ヒュウガナツの可溶性固形物に一定の傾向は認められなかった。クエン酸はナツダイダイ中間台がやや高い傾向にあった。

6) ミネオラ、セミノールではナツダイダイ中間台の可溶性固形物がやや低く、早生温州中間台でやや高い傾向にあった。クエン酸はミネオラではほとんど差がなかったが、セミノールでは可溶性固形物の反対の傾向がみられた。

7) 以上のことから、温州中間台はカラチ台と比較して果実の内容に大きな差異は認められなかったが、ナツダイダイ中間台では果実の内容がやや劣る傾向が認められた。



第1図 中間台木の種類と果実の品質